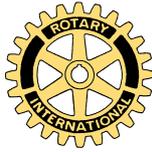


THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2008～2009年度 国際ロータリー 李 東建（リー・ドンカン）会長テーマ

Make Dreams Real 夢をかたちに

創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 塚本 幸夫
幹事 廣根 実
会報委員長 今村 順

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2623回例会プログラム

[当年度=24回目；当月=2週目]

2009年（平成21年）2月9日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……我等の生業
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 幹事報告
9. 出席報告
10. 委員会報告
11. ニコニコボックス報告
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(2/16) ……

クラブフォーラム（国際奉仕委員会）
卓話「WCSについて」
講師 地区世界社会奉仕委員会
委員長 亀橋 美久 様
(名古屋中 RC)
(紹介者 加藤 俊二 会員)

- (2/23) ……
新入会員アワー 伊藤 正宣 会員
" 内藤 正 会員

- 13:00 13. 本日のプログラム
卓話「刈谷音楽協会5年の歩み」
講師 刈谷音楽協会
理事長 近藤富士雄 様
(紹介者 橘 典子 会員)

14. 謝辞
15. 点鐘……〈会長〉
16. 閉会宣言

13:30 17. 散会

ビ ジ タ ー

久恒 治人 様（知立 RC）

ゲ ス ト

米山奨学生 スリ・クンチョロ 様

出 席

会員総数 95名 出席免除 22名
出席義務者+免除者の内例会出席者 89名
欠席 8名 出席率 91.01%
前々回（1/26）の修正出席率 100%

会 長 報 告

- 1) 去る2月2日、本日卓話をお願いします刈谷音楽協会の事業経過報告会があり、廣根幹事に出席していただきました。
2) 次年度地区委員の委嘱状が届きました。次年度1年間、よろしく願いいたします。
- | | |
|----------|------------|
| 地区諮問委員会 | 野村 重彦 会員 |
| 研修委員会 | ○ 前田 孝司 会員 |
| 会員増強委員会 | ○ 太田宗一郎 会員 |
| 青少年交換委員会 | 野村紀代彦 会員 |
| 恒久基金委員会 | 吉原 孝彦 会員 |
| 米山奨学委員会 | ◎ 竹内 一郎 会員 |
| 危機管理委員会 | 竹内 一郎 会員 |
- ◎：委員長 ○：副委員長

薬の一生

塚本 幸夫



会社に入った人が全て同じ運命を辿るとは限らない。有能でも人間的にも立派で順調に栄進する人もあれば、有能であるが人間的に欠けるものがあった、恵まれずブツブツばやきながら定年を迎える人もある。また有能でありすぎてトラブルを起こし退社する人も

あろう。薬の場合、新しい薬は約10年の歳月と、一年間に約10億円の研究費をかけて、厳しい審査を受けて初めて承認される。従って、全てそれなりに有効（人であれば有能）である。しかし、承認されるまでの使用症例と比べると、承認後の症例数は比較にならないほど多いので、今まで分からなかったトラブル（副作用など）も起こり、そのために販売を中止する薬もある。このような薬を見るにつけ、有効で、薬としての命も長く、しかも安価であるアスピリンが頭に浮かぶ。人でいえば有能で丈夫で長持ちで社会的に貢献していることになる。その生い立ちはヤナギの樹皮が熱や痛みに効果があることが紀元前にはすでに分かっており、医聖ヒポクラテスも用いたと言われている。しかし、中世期、病気は悪魔の懲罰によるもので、医師や薬物によって病気を治そうとするのは神の意思に背くものであるというキリスト教の教えとともに、このヤナギの使用などは忘れられた。近世になり、エドワード・ストーンが、老婆からヤナギの樹皮が「おこり」に効くことを教えられ、治療に用いてその効果を確認した。その後、有効成分が分離され、それがサリチル酸であり、合成されて大量に使用されている。現在は解熱鎮痛消炎薬としてよりは、脳血栓の予防に使用されている。

一方で、有能ではあったがトラブルのため退社しなければならなくなった薬の代表はキノホルムであろう。欧州では旅の友といわれ、下痢の薬として食卓に常備されるほどであったが、わが国ではキノホルムの吸収を良くするよう改良し、汎用された結果、スモンが発症したため、販売を中止したという例が有名である。

薬も懸命に生存をかけて働いている。薬の的確な情報のもとに、彼ら薬の使命を果たさせていきたいものである。

「音楽協会5年の歩み」

刈谷音楽協会

理事長 近藤富士雄様



平成16年4月刈谷音楽協会を立ち上げるべく、発起人会を立ち上げました。これは他市にはない、プロ・アマ合同の協会づくりを目指す為でもありました。設立までの経緯としましてまず第一に事業目標として、「音楽文化の薫りがする街づくり」を掲げさせて頂きました。音楽設立

までの約7ヶ月間、市内の音楽関係の状況が把握できていなかったため、行政を始めとし、各方面を回らせて頂きご意見を伺いました。暖かいお言葉が多く、地域音楽文化の受け皿となれるような協会づくりを目指していこうという思いは強くなってまいりました。こうして、同年11月設立趣意書を基に発起人一同で刈谷音楽協会を立ち上げ、設立総会を行いました。その節には、ロータリークラブ様よりご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

この5年の歩みとしましては、毎年、刈谷音楽祭・刈谷音楽協会演奏会を開催致しました。この催しは全て満席となり役員一同驚きと共に皆様方のご協力に感謝しております。また学校クリニック・依頼演奏（これはロータリークラブ・商工会議所等より依頼を頂き応援して頂きました）、又昨年ハイウェイオアシスよりお話をいただき刈谷音楽協会の日として活動させて頂いています。こうして皆様方のご支援により徐々に活動の場が広がって来たことには誠に感謝しております。

平成17年、新ホールが誕生するという事で音楽協会からも提言書の提出をさせて頂きました。この新ホールのオープンに際して、協会として市民の手による企画を提言していました。それから3年かかってようやく「市民音楽劇」と言う形で企画書が出来上がり、市に協力を申し出ていたところ、“刈谷市総合文化センター開館記念公演実行委員会”として昨年4月に立ち上げることが出来ました。

開館記念公演としては、今まで他市にないスケールの大きなものとなっております。この「市民音楽劇」を成功させることで、刈谷市総合文化センターが文化の拠点になって欲しいと願うと同時にまた、今回市民スタッフとして応募して下さった皆様には、この開館記念公演終了後、ホールのボランティアスタッフとして発展して欲しいと思っております。

また協会にはこの会館の中に、市より事務室を提供していただけることになり、今後の活動拠点となる事と思えます。また指定管理業者には地元エリアワンさんも入っておられると言うことで大変心強く思っております。

まだ色々な点で力不足の否めない協会ですが、今後成熟していく上で皆様方の暖かいご支援が不可欠でございます。

一つの文化が育っていくのにも何年とかかるでしょう。
色々な形で文化活動に参加して頂ける方が一人でも多く
出てきて頂けることを願っております。

今後も、刈谷音楽協会の活動にご理解頂けますことを
お願いして終わりとさせていただきます。